

戸矢研究室

[応用人文学]



生産技術研究所 人間・社会系部門

文化をめぐる人文と工学の研究グループ／複雑系社会システム研究センター

Department of Human and Social Systems

Research Group on Culturally-Informed Engineering/Center for Social Complex Systems

社会・文化の次元を加えた新たな文理融合の推進

文理融合の実践のためには、全体を俯瞰し、効果的なマッチングを考え、そして実践を進めていく、三段階のステップが必要になります。こうした、異分野を緩衝する中間地帯の設計こそ重要であると考え、東大EMP（エグゼクティブ・マネジメント・プログラム）修了生有志の実務家の協力を得て、広く文化・社会を念頭に置き、実務家も加えたあらたな文理融合のあり方を検討し、展開しています。文系出身で実務経験を持つことに加え、自身も文理の全領域を学ぶEMPを修了した経験を活かし、真に有効かつダイナミックな領域横断と連携の実現に努めています。2019年7月より開催している「文化×工学研究会」とともに、2020年4月に発足した「文化をめぐる人文と工学の研究グループ」にて、さらなる発展に向けて取り組んでいます。2022年4月には「文化×工学研究会」における議論を契機にした「複雑系社会システム研究センター」が発足、「工学×経済」の新たな展開を進めています。

歴史研究の工学・社会への応用

元々の専門である、美意識をめぐる社会史/文化史やファッション・化粧品などの感性産業の経営史について、継続的に研究を行っています。同時に、上記のように蓄積された人文知の工学および社会への展開に取り組んでいます。

近未来ライフスタイルを想定したプロトタイプ制作

※豊島ライフスタイル寄付研究部門(2018.10-2021.9)

同部門にて、近未来ライフスタイルを想定したうえで、生研に蓄積されたシーズを活かしたプロトタイプ（コンセプトモデル）の制作に、価値創造デザイン推進基盤との協働のもとチームとして取り組みました。この経験をもとに、文系出身の知見をデザインに活かします。



本質的に工学に関連するテーマで、文化や芸術に関連する領域の第一線で活躍されている講師を学内外から招聘する「文化×工学研究会」を毎月、学内教職員・EMP修了生にオープンな形で実施しています（左・現在はオンライン）。同会における議論を発展的に展開する形で「文化をめぐる人文と工学の研究グループ」にてフォーラム「音楽の可能性」（2021年2月20日）「工学とリベラルアーツ」（2022年3月23日）を開催しました。